

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1196500795		
法人名	㈱ふれあい広場		
事業所名	ふれあい多居夢浦和		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区元町1-32-17		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和3年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地帯に立地しており、四季折々の景色を眺めることが出来るような、環境に囲まれ生活しております。職員は認知症であっても普通の人と同じように生活出来るよう、日々その人に合わせた認知症ケアに取り組んでおり、入居者様も穏やかに生活しております。また入居者様がこれまで暮らしてきた街で自分らしく日々の生活が送れるよう個々の出来る所を、スタッフ側から思いを引き出し調理補助や片づけ等、日々家と変わらない環境支援にも取り組みながら一緒に生活しております。ご家族様には随時連絡やホーム便りをお送りし、入居者様の様子をお伝えしコミュニケーションを図れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者、職員が一体になった質の高い支援が実践され、コト対策も状況に合わせた様々な対応で事業所全体として安心、安全に取り組まれている。入居者の家にお邪魔し、出来ないことを支援させていただくの考えに立ち、入居者一人ひとりの行動の意味を考え、「時間がゆっくりしている」ことを常に意識したアクションを大切にされている。
- ・運営推進会議は、文書で定期的に報告され、自治会長、民生委員や地域包括支援センターなどの参加者には電話や訪問を通して意見、提案、地域情報などをいただくことで事業所運営にも活かされている。
- ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策における地域との信頼協力関係づくりを取り上げ、消防署との連携や地域避難所の中学校の先生への挨拶などが行われたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケースファイルに事業所の理念を綴じ職員は随時確認することが出来るようにしている。入居者様職員ともに理念である【ゆとりのある介護】が行えるように努めている。	入居者の家にお邪魔し、出来ないことを支援させていただくとの立場から、入居者一人ひとりの行動の意味を考え、日常の生活の場で時間をかけて会話されている。思いを知り、信頼関係を築くことに努められた理念の実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事に可能な限り参加している。コロナ渦で中止だが町内祭りでは駐車場を提供し多くの方々にホームの認知もして頂いている。	管理者やユニットリーダーが自治会長や民生委員を訪問し挨拶を交わし、運営についての意見や地域の状況などを伺われている。また、地域包括支援センターや病院などを訪問し、事業所を知っていただく取り組みを通して地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の方々やご家族に向け入居者様の様子や認知症ケアの方法を紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催し実施している。ご意見や情報を入居者様やご家族にサービスとして提供出来るように努めている。	運営推進会議は文書方式で定期的に報告されている。自治会長、民生委員や地域包括支援センターなどの参加者には事前にFAXで発信され、電話や訪問を通して意見、提案、地域情報などをいただくことで事業所運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター、民生委員に会議に参加して頂き情報交換をしている。地域の協議体などの会議に参加し地域情報やサービスの情報もいただいている。	市担当者には、入居者受け入れ時に家族関係や後見人のことなどを相談されている。また、コロナワクチンの接種情報などもわかりやすく共有され、様々な協力体制も築かれ、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会において知識の共有をし特にスピーチロックなどには注意をしている。委員会の議事録や資料の配布をして身体拘束のないケアに努めている。	身体拘束虐待防止委員会は定期的に開催され、その内容は職員間で共有されている。常に反省点を話し合い、スピーチロックをしない会話のキャッチボールができるよう心がけ、プロとしての対応を学び、拘束に頼らないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待防止委員会により情報の発信は行っているが、法律を学ぶ機会は少なく勉強会を開催し学んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この項目は知識を学ぶ機会が少ないが研修や施設内の勉強会で学ぶ機会を設けていきたい。 法人内では年1回この項目で研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧かつ的確に説明を行ない不安な点について確認し分かり易く説明をしてご理解頂けるように心掛けている。終末期のケアについても伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しご家族来訪時などにはご意見を頂き、入居者様のニーズにも可能な限り答えていけるようにしている。また運営推進会議を開催し参加いただいたご家族の要望に応えられるよう努めている。	入居者に食事、職員の対応、個々の楽しみの3項目の満足度アンケートを行い、「外出したい」、「お寿司が食べたい」などの意見が出され、対応されている。家族からは体力低下を心配する声が聴かれ、症状や回復の経緯を家族に報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社職員に随時現場の声が伝わるようにお話しを機会を設け相談もしている。職員が気持ちよく仕事ができるよう努めていただいている。	管理者、リーダー、職員間で自由に発言できる環境が整えられている。入居者と職員が一緒に楽しく過ごすための提案やケアでの疑問点や改善点なども話し合わせ、「報・連・相」を徹底され、運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の研修に参加する機会を設け職員一人ひとりのスキルアップが出来るようにシステムを整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他施設との職員交流や同業者との交流は研修内でのグループワークにおいて意見・情報交換など行ない自施設のサービス向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦で中止しているが毎年TMG本部研修や看護局研修の参加。今後もネットワーク作りを力を入れ、質の向上に努めていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時の不安は多く、随時お話を聞き不安のない生活をして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にホームに対する希望や入居者様の生活に対する希望を伺い、意見交換が出来やすいように随時コミュニケーションを図りより良い関係に慣れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループ内の老健や特養についてのご紹介も状況に応じ行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様の出来る事探しをし、入居者様に役割を持っていただき一緒に生活している意識を持ち共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際には話しをしやすい雰囲気をつくり、入居者様の日々のご様子をお伝えし意見交換の場を設けている。より良いホーム生活がして頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の友人の来訪やお電話の取次ぎ、お手紙など本人様にお渡しするなど、今までの関係性が無くなる事が無いように努めている。	年4回の「ふれあい便り」を通して家族からは入居者の馴染みにしていたことを聞き取り、入居後も継続できるよう取り組まれている。昔の歌や同世代の歌手のコンサート、「ごぼう体操」なども取り入れられ、これまでの関係性が大事にされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や行動を把握し、フロア内での関係性も考慮し席の配置をするなど工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も来訪しお話しを下さるご家族様もいらっしゃったが、時間が経つにつれて来訪も無くなり関係性も終了してしまう状況がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時満足度シートの活用や聞き取りによりケアに活かせるように努めている。本人様からの聞き取りなどが困難な場合はご家族様に聞き取りをし希望に添えるよう努めている。	心理的距離感を見極めながら、「発症経過ノート」や職員からの声掛けを通して、出身地や職歴の話題、趣味や得意なこと等を把握されている。また、満足度アンケートを活用し、今まで知りえなかった潜在能力を引き出す取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時ご家族様に今までの生活歴を記入していただきケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロア会議時や日常の勤務時に随時変化のある入居者様の状況を観察し意見交換を行なっている。自身で出来る事は行なって頂き役割を持つようにし能力を活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からのご意見や居室担当を中心者としてフロア内の会議時にカンファレンスを行ない介護計画作成を行っている。	入居者の思いをそのまま記載し、できることを継続し、希望が実現されるための具体的な介護計画が作成されている。フロア会議でのカンファレンスを通して、意見が出され、家族からは電話や書面で聴き取りを行い、サービス内容に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し職員間で情報の共有を行ない、随時介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ渦で自粛しているがボランティアやサービスを受け入れ入居者様との交流の時間を設けている。また外部からいただいた活動情報で参加出来るものがあれば柔軟に対応し参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年行われる自治会行事や近隣小学校の行事に参加し、近隣との交流を図っている。今年度はコロナ禍にて自粛しているが、来年度は再開し地域交流を継続していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もなじみの医療機関に継続して受診している方もいる。協力医にかかる際も御家族に意見を頂いたり、適時に報告したりと適切な医療を受けられるようにしている。	入居前からのかかりつけ医への受診には家族の同行を基本に、状況に応じて管理者が同行されることもあり、日常は協力医療機関の往診により健康管理が行われている。かかりつけ医受診後は家族から情報をお聴きし、職員への周知にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、入居者様の情報伝達し、適切な処置やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこちらからの情報提供とともに、入院中は家族からの情報以外に適時面会し状態を確認し、退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変化した際は早い段階で、医師・ご家族・職員間で面談し、今後の対応に繋げている。	重度化や終末期については、段階ごとに指針が説明され、看取りに際しても入居者や家族の気持ちに寄り添いながら落ち着いた環境作りに努められている。状況に応じた対処方法が確認され、医師から夜間や緊急時はどう対応するかなどのアドバイスをいただき情報共有も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応チャート図を事務所に掲示し対応を統一している。応急手当の初期対応訓練も実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。また訓練内容は運営推進会議の場で報告している。	消防署職員が立ち会われた避難訓練が行われ、2階の入居者の避難方法などについてアドバイスいただいている。また、事業所の耐震構造やハザードマップの確認も実施され、地域の避難場所の中学校の校長先生ともコミュニケーションが図られている。	現状を理解された災害対策が講じられていることから、実際に発生した時に職員の行動などがスムーズに行われるよう訓練を通して習慣化・平準化に取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ちその方の誇りやプライドを傷つけぬよう、丁寧な声掛けを心掛けている。	一人ひとりを尊重し、その人に合った話しかけを行い、不安を取り除き安心していただくよう取り組まれている。居室への入室などでも当たり前のようプライバシーが守られ、更に、着替えを選ぶ際にも入居者の意思を大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で密に会話をする事で本人の思いや希望を把握し、自身の希望や決定に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせる介助を行ない自身の行いたいことが出来るよう支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容面では整容係が中心となり不快な思いをさせないように気を配っている。またホーム内での企画などの際化粧をするなど美意識を忘れないように支援などもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食の盛り付けなどに参加していただいたり、おやつ作りを企画し職員と一緒におやつ作りを行なうなどの支援をしている。また食器やお盆洗い、拭きなどは出来る方に行ってもらっている。	日常は歯に優しく味付けはしっかりした食事が提供され、入居者との関わる時間を増やすことを優先に、なるべく時間をかけずに作るよう取り組まれている。誕生日などには希望をお聴きし、出前をとったり、クリスマスなどのイベント食も準備されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状況に合わせ栄養ドリンクの提供や嚥下機能低下者にはトロミを使用したり状態に応じた対応は行っている。お茶以外にも色々な種類の水分を用意し少しでも多く水分摂取して頂けるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行ない洗口液や、義歯洗浄剤、口腔スポンジを活用したり清潔保持に配慮し訪問歯科医とも情報共有し嚥下機能に関しても注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄間隔を把握し、トイレの声掛けを行っている。	夜間は睡眠優先にオムツ使用の入居者もおられるが、日中はトイレ誘導による排泄を優先させ、早めの声掛けに努め、入居者の意志も尊重されている。オムツ使用に対しては洗浄や清拭をしっかり行い、衛生面にも配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜や乳製品を取り入れたり、自然な排便を促している。便秘時は医師と確認し必要な下剤調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決められた曜日に入浴でなく、本人の意思を尊重し対応している。拒否の多い方は声掛けを工夫し入浴して頂けるよう促している。	入浴は「いこいの湯」と称され、気持ちよく入られるよう季節湯や入浴剤で温泉気分を味わっていただいている。清潔感も大切にされ、看取り介護の入居者にも入浴していただくなどの支援がなされ、また、ヒートショック対策にも配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間休めるようにその人に合わせて日中は活動を促して、夜間休まれるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能や副作用が記載した服薬ファイルを活用して、介助するようにしている。服薬内容が変更になった場合は、職員に周知し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合わせた役割として洗濯物たたみ、食事、買い物などを支援し、楽しんで生活出来るようしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃からの散歩・ドライブ・自治会行事や季節に合わせた外出など、外出が出来るよう支援している。コロナ渦で自粛しているが、来年は状況を見て再開していく	外出が制限される中、建物の外に出て外気浴や散歩を楽しまれたり、駐車場でお茶やおやつを食べるなどの支援が行われている。また、近所のマーケットに買い物に出かけたり、徐々に外出機会を多くするよう取り組まれ、玄関で花見をする企画なども検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本入居者様が個人でお金の所持管理をされてはいないが一部入居者様は少額所持をされ職員と一緒に外出した際に使用されることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話の取次ぎ手紙のやり取りは出来るように支援している。携帯電話を所持されている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたフロアの装飾を行ない日々の生活の写真を掲示したり、音や光、温度には特に配慮している。不快感が無いよう衛生面でも配慮している。	玄関を含め共用空間には季節に合わせた飾りつけがなされ、机の配置にも独自の方法が取り入れられ、入居者の視界の変化などを意識した共用空間作りがなされている。フロア内では皆と一緒に過ごされることを大切に、レクリエーションや体操など取り入れ、楽しんでいただいている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性も考慮し皆さんが心地よい空間を提供出来るよう玄関先にベンチやフロア内にソファの設置をしている。1人の時間を過ごしたい方はソファを利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前使用されていた家具や趣味のものなどを持ち込まれ以前自宅で過ごされていた時の状態に近い状態で過ごしていただけるよう工夫し写真なども持ちいただき会話のツールとしても活用している。	居室の出入り口には職員手作りの花飾りがかけられ、自分の部屋の目印にも利用されている。馴染みのものの持ち込みには特に制限を加えず、使い込まれた鏡台や椅子、ラジオや携帯電話も持ち込まれ、居心地良く過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の出来る事、分かる事を把握し自身で行なえる事は極力自身で行なっていたり役割を持っていただき家事のお手伝いには職員見守りのもと積極的に行なって頂いている。		

(別紙4(2))

事業所名: ふれあい多居夢浦和

作成日: 令和 4年 1月 31日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災想定訓練は実施しているが水害想定訓練は実施していない。	全職員が水害に対して避難、対応できるようになる。	・年2回の消防訓練時に水害訓練(垂直避難訓練)を実施する。 ・年2回の面談時に水害に対してのロールプレイを行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。